



けすぞう新聞

2018年8月発行
NO.8
播磨町消防団女性分団

その判断が、後悔にならないために

短時間の大雨への備え、できていますか？

7月の長雨による洪水災害、土砂災害は記憶に新しいかと思えます。播磨町では甚大な被害はありませんでしたが、もしもの時を考えて、私たちが住んでいる場所がどのようなところか今一度確認しましょう。災害が起きた時ではなく、起きる前に、どのように行動すれば良いか考えてみましょう。

川が氾濫しなくても、浸水の危険があります



- 川、池の氾濫:大雨で水の量が増え、堤防が壊れたり、堤防を越えて水があふれ出す。(外水氾濫)
雨が降り出してから被害が発生するまでの時間が長く、川の近くで起きやすい。
一度起きると大量の水が勢いよく町の中に流れ込み、あっという間に被害が発生します。
- 用水路、側溝:大雨で水の量が増え、川や池への排水が追いつかず、水があふれ出す。(内水氾濫)
大雨が降ると、側溝・下水道や排水路だけでは降った雨を流しきれなくなることがあります。
水はけが悪くなり、建物や土地・道路が水につかってしまいます。

ふだんからの備えは

大雨から浸水被害が発生するまで、あっという間です。

①川、池(ため池)だけではなく、用水路や側溝の場所も確認しましょう。

住んでいる地域、会社がある地域、子どもの学校がある地域などは確認しておきましょう。

②自分の家の周りの側溝などを定期的に掃除しましょう。

側溝などに落ち葉、土、石などが詰まっていると雨水が流れずにあふれやすくなります。

③避難経路と避難場所を確認しましょう。

避難経路は周囲よりも低くなっている地域、地下通路、地下道などは通らず高い位置にある道路を選びましょう。いちど歩いてみて、どれくらいの時間がかかるか確認しましょう。

播磨町ホームページより→



避難ルートのチェックポイント

- 川や水路等、大雨の際に危険な箇所はないか？
- 坂道や階段等の歩きにくい箇所はないか？
- 夜間での避難を想定し、街灯等はあるか？
- 自宅から避難先までの時間はどの程度か？
- 避難途中で逃げ込めそうな場所はあるか？
- その他、気づいたことはないか？



まとめ

播磨町のホームページにはいろいろな災害に合わせた防災マップや避難経路分析図が掲載されています。一度、ご確認ください。

大雨が長く続くほど、氾濫の起きる確率は高くなります。大雨が降り出したら、常に気象情報を確認し、避難する準備をしておきましょう。天気予報の他に、大雨注意報、大雨警報、大雨特別警報、記録的短時間大雨情報も確認しましょう。

また、住んでいる地域で雨が降っていないくても、周りの地域で大雨が降っている時も、準備をしておきましょう。

